オーディオ実験室収載

STAGE+を楽しむ(41)(HP 収載)
―アームストロングの鍵盤音楽年代記(1)―

１．始めに

前報(40)に引き続き、STAGE+のアームストロングの鍵盤音楽年代記の演奏の試聴を実施します。

２．試聴音源

今回は、アームストロングの鍵盤音楽年代記の演奏を選びました。

アームストロング 鍵盤音楽年代記 1620～1720 Contrast

東京・春・音楽祭 2023

収録日: 2023 年 4 月 4 日

圧倒的なレパートリーの広さと高い技術、そして膨大な知識を有する稀有なピアニストであるキット・アームストロング。「東京・春・音楽祭」の公演である「鍵盤音楽年代記」は全 5 回のシリーズで、アームストロングならではの視点から鍵盤音楽史を深く辿ることができるものです。第 2 回では、バロック時代のさまざまな流派間の対比を試みています。 J. S. バッハの作品が最初と最後に配置されたこのプログラム。その間には、ヘンデルの有名な第 5 組曲のほか、イギリスとフランスの作曲家の作品も含まれます。C.P.E. バッハによるアンコールは、シリーズの次のコンサートを導くものとなっています。

ソリスト:

キット・アームストロング（ピアノ）

曲目:

ヨハン・セバスティアン・バッハ　《かくも喜びに満てるこの日》BWV605

ヨハン・セバスティアン・バッハ　《古き年は過ぎ去り》BWV614

ヨハン・セバスティアン・バッハ　《主イエス･キリスト、われ汝を呼ぶ》BWV639

ヨハン・セバスティアン・バッハ　《おお主なる神よ、われを憐みたまえ》BWV721

ヨハン･セバスティアン･バッハ　《主イエス･キリストよ、われら汝に感謝す》BWV623

ヨハン・セバスティアン・バッハ　《人みな死すべきもの》BWV643

ジョージ・フレデリック・ヘンデル　組曲第 5 番ホ長調 HWV 430

ジョージ・フレデリック・ヘンデル　パッサカリア（ハープシコード組曲第 7 番ト短調 HWV432 より）

ジョン・ブル　《地の偉大なる創造主》第 1,2,3,6,7 番

エリザベト・ジャケ・ド・ラ・ゲール　《クラヴサン曲集 第 1 巻》第 1 組曲より

フランソワ・クープラン　《クラヴサン曲集 第 2 巻》第 6 組曲より

第 5 曲 ：神秘的なバリケード

フランソワ・クープラン　《クラヴサン曲集 第２巻》第 11 組曲より
第３曲：生まれながらのあでやかさ
フランソワ・クープラン　《クラヴサン曲集 第１巻》第４組曲より
第４曲：目覚まし時計
フランソワ・クープラン　《クラヴサン曲集 第２巻》第８組曲より
第８曲：パッサカリア
ジャック・シャンピオン・ド・シャンボニエール
《ボーアン写本 第１巻》より シャコンヌヘ長調
ヨハン・セバスティアン・バッハ　協奏曲ト長調 BWV980
（ヴィヴァルディのヴァイオリン協奏曲変ロ長調 RV381 にもとづく）
ヨハン・セバスティアン・バッハ　《半音階的幻想曲とフーガ》ニ短調 BWV 903

東京春の音楽祭では、キット・アームストロング（ピアノ） 鍵盤音楽年代記（1520-2023）と題して、次の５回のプログラムの公演がありました。

４月１日【1520-1620：The Golden Age】
４月４日【1620–1720：Contrast】
４月６日【1720–1820: Enlightenment of Heart and Mind】
４月８日【1820–1920：Visions】
４月 10 日【1920-2023：Among All Cultures】

今回はその２回目のプログラムの STAGE+での公開です。
解説にあるように、実にルネサンスからジャズや現代曲に至るレパートリーの広さですが、今回は Contrast とあるようにバロック時代の流派による音楽の違いを描きわけています。バッハに始まりバッハに終わるプログラムですが、ジョン・ブル、エリザベト・ジャケ・ド・ラ・ゲール、ジャック・シャンピオン・ド・シャンボニエールのような聞きなれない作曲家の名前もあります。ヘンデルの組曲では、お馴染みの調子の良い鍛冶屋も曲も含まれています。

ピアノはベーゼンドルファーで、その重厚な響きを活かしながら、緩急、抑揚、強弱とりまぜて曲の表情に合わせて演奏しています。
東京音楽祭のプログラムは聴かなかったのですが、今回の STAGE+での公開はベーゼンドルファーの音色を十分に再現しています。

以上